

## 編 集 後 記

本年度の研究活動一覧の最も特徴的なものとして①ジャーナルのimpact factorを巻末に掲載したこと、②原稿にfloppy discも活用したこと、の2点が挙げられる。前者は近年の大学での最も重要な活動の一つである研究における自己点検・評価に対応し、客観的になるべく評価できる様にこの研究活動一覧にもその尺度の一つとして掲げた。最終的には各教官の毎年の研究成果が一覧出来るようになると更に励みにもなる。また本大学での研究活動の向上にも一助となると信ずるが、本年はその第一歩となる試みとなしたが、その効果は如何なるものか反応をみるのが楽しみである。

幸い、原稿の集まりは良く、floppy discによる提出も90%を越えており、印刷・編集に便利であると思われ、軌道にのれば毎年floppy discのみで校正もあまり要することもなく迅速に行われるものと期待する。

伝統あるこの研究活動一覧が一段と研究活動の軌跡を充分反映し、また将来の活動への飛躍として活用されることを希望する。

編集委員 小 林 正  
木 村 郁 子  
盛 永 審一郎  
渡 邊 裕 司  
龍 村 俊 樹